

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	人間情報論2		
英文授業科目名	Human Informatics 2		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-情報メディアシステム学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報メディアシステム学専攻		
担当教官名	阪口 豊		
居室	IS-422		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sakaguchi@is.uec.ac.jp	http://www.hi.is.uec.ac.jp/lecture/hi/

【講義の狙い，目標】
人間の多様な機能を実現している脳情報処理メカニズムについて，脳科学や計算知能(computational intelligence)の観点から講義する．具体的には，種々のニューラルネットワークやその学習アルゴリズムについて，それらが生まれてきた時代背景や相互の関係をふまえながら解説する．時間に余裕がある場合は，最近の計算論的神経科学の話題についても議論する．

【内容】
<p>1) 脳のモデル研究とニューラルアルゴリズムの概説：(1コマ) 講義の初回到ニューラルネットワークアルゴリズムに関する1940年代から現在に至る研究の流れを概観する．</p> <p>2) ニューラルネットワーク・アルゴリズム：(10コマ程度) 主なネットワークアルゴリズムについて解説する．具体的には，神経細胞モデル，パーセプトロン，多層パーセプトロン，サポートベクトルマシン，特徴量抽出，自己組織化マップ(SOM)，連想記憶，強化学習，独立成分分析などの話題を取り上げる予定である．</p> <p>3) 演習実験の説明(2コマ程度)： 学習アルゴリズムの性質を理解するための数値実験の考え方を説明し，実験を行なう際の注意事項を述べる．</p>

【教科書，参考書】
<p>教科書は使わない．参考書として以下の書籍をあげておく．詳しくは講義のホームページを参照のこと．</p> <p>1) 中野(編)：ニューロコンピュータの基礎，コロナ社．</p> <p>2) Sutton RS and Balto A: Reinforcement Learning --- An Introduction、MIT Press.(翻訳書あり)</p> <p>3) 村田: 入門独立成分分析，東京電機大学出版会．</p>

電気通信大学 平成20年度シラバス

【予備知識】

線形代数（ベクトル，行列）と解析（微分や微分方程式）の基礎的な知識を要する．また，演習問題を解くには基本的なプログラミング能力が必要である．

【演習】

計算機を用いたシミュレーション実験の演習を行なう．

【成績評価方法及び評価基準】

演習およびレポート．受講者数が少ない場合は 세미나形式で発表会を行なう．

【その他】

モデルや学習アルゴリズムの中身や性質は，講義を聴いているだけではよく理解できないし，身にもつかない．演習を通じて，種々の手法の性質や限界を実感してもらいたい．